

## 東海大翔洋高美術部

新潟県佐渡市で3月に行われる木版画制作のチーム戦「第20回全国高等学校版画選手権大会」(はんが甲子園)への

出場を決めた東海大静岡翔洋高美術部の部員が、長く同部顧問を務め、本年度末で定年退職する沢田祐一教諭(62)

# 先生の有終飾る はんが甲子園に

1月の予備審査を通過した小原千和さん(1年)、杉村衣織さん(同)、平垣汰朗さん(同)の3人がチームを編成し、18日、22日の大会に臨む。期間中の2日半で現地の人や自然を取材してテーマを定め、多色刷りの大作を共作する。大会に向け3人は、毎日2時間の木版画実習で技術を磨く。小原さんは「全員が能力を出さないと良い作品にならない。チームワークを高めた」と彫刻刀に力を込める。

沢田教諭 本年度定年退職

## 生徒、彫刻刀に思い込める



り生徒と頂点を目指し続けた思い出深い大会だ。ことしも大会期間中に同高で行われる離任式には出席せず、佐渡市で生徒と時間を過ごす。杉村さんは「先生には(社会部・橋爪充

配色をはじめ、一から版画を教わった」と感謝する。平垣さんは「先生の最後の大会で最優秀賞を取りたい」と言い切る。沢田教諭は「3人の作業でという化学変化を起させるか。それぞれが自分の役割を果たせばきっと良い結果が出る」と励ました。

同高は同大会14回目の出場。第1回(2001年)、第15回(15年)は最優秀賞に輝いた。1983年に同高の前身東海大工高に着任し、校舎周辺に自生するマツをモチーフにした作家活動も続ける沢田教諭にとっては、20年にわた

はんが甲子園に向けた実習に取り組む(左から)平垣さん、沢田教諭、杉村さん、小原さん  
|| 静岡市清水区の東海大静岡翔洋高